

## 第3学年2組 国語科学習指導案

指導者 島谷 純江

1. 日時 平成26年6月18日(水) 第5校時 13:45～14:30

2. 単元名 生き物のふしぎをしょうかいしよう  
～ わたしの「どきん」見つけた! ～

3. 単元目標

驚きや感心したことを探しながら科学読み物や写真絵本を読み、わたしの心をとらえた生き物のふしぎを「ふしぎ・どきんカード」に書いて紹介する。

指導事項：C 読むこと

(1) イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

4. 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「わたしの心をとらえた生き物のふしぎを紹介カードに書く」ことを位置づけた。紹介カードでは、生き物のふしぎに心を動かされた文を引用し、なぜその文を選んだのか、その理由や考えたことを書く。また、心をとらえた生き物のふしぎをタイトルに表す。このように生き物のふしぎを紹介カードに表すことで、「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて読む」(C 読むことイ) こと、「目的や必要に応じて要約する」(C 読むことエ) ことを実現することができると考えた。

5. 単元の評価規準

| 国語への関心・意欲・態度  | 読む能力  | 言語についての知識・理解・技能  |
|---|---|--|
| <p>・生き物のふしぎを見つけるために、驚きや感心したことを探しながら科学読み物や写真絵本を読み、心が動いた生き物のふしぎについて紹介し合おうとしている。</p> | <p>・生き物のふしぎを紹介するために、自分の驚きや感心したことの中心となる語や文をとらえて科学読み物や写真絵本を読んでいる。(イ)</p> <p>・生き物のふしぎを紹介するために、自分の心をとらえた事柄について文章を引用したり、伝えたい内容を要約してタイトルに表したりしてカードにまとめている。(エ)</p> | <p>・指示語や接続語が文と文とのつながりに果たす役割を理解し、生き物のふしぎについて書かれている文章を読んでいる。(イ(ク))</p> |

## 6. 単元について

### (1) 児童の実態

前学年の「たんぽぽのちえ」の学習では、たんぽぽがどんな時にどんな知恵をはたらかせ、命をつないでいくのかを順序に気をつけながら読み、ここがおもしろいな、ふしぎだなという自分の考えをもつことができた。また、「どうぶつ園のじゅうい」では、初めて知った驚きやもっと知りたいなと感じたところを見つけながら獣医の仕事を読み、なぜ心を引き付けられたのか、自分の考えをまとめることができた。

本単元では、驚きや感心したことを探しながら科学読み物や写真絵本を読み、心をとらえた生き物のふしぎを「ふしぎ・どきんカード」に書いて紹介し合う。今までの学習を生かして、自分のとっておきの生き物のふしぎとその魅力を相手に伝える。そのために、自分の感想が文章のどこから来たものであるのか、どの文、どの言葉に魅かれたのかがわかるようにその箇所を引用し、選んだわけを明らかにする。そこには自分の思いや考えが表れるであろう。また、自分の取り上げた「ふしぎ・どきん」を短い言葉でズバリと表すタイトルづけをすることで、要約する力をつけたいと考えている。

### (2) 教材及び単元構成について

#### ①教材について

「ありの行列」は、生き物の生態について書かれた科学読み物である。ありがえさと巣を行き来しながら行列を作るなどを解説した文章である。「観察→実験→予想→調査→行列のできる理由」という構造で、アメリカの学者ウィルソンの実験を順序よく紹介している。

本単元では、教科書教材「ありの行列」とともに、身近な生き物の生態について書かれた科学読み物や写真絵本を扱う。「フェアブル昆虫記」のような科学読み物をはじめとして、「科学のアルバム」「生き物発見シリーズ」、写真家の手がけた写真絵本「栗林さん虫めがね」「やっと出会えたね」など、生き物の生態について書かれた本を集めた。「書かれた文章から、子ども達が生き物のふしぎを見つけられるもの」という観点で選書している。これらの本を読むことで、今まで知らなかった新しい知識を得る楽しさや思ってもみなかったことに気づく驚きを体験し、生き物に関する科学的な興味関心を広げるきっかけになってほしいと願っている。

#### ②単元構想について

第一次では、教師自作の「ふしぎ・どきんカード」を提示し、心をとらえた生き物のふしぎについて紹介することで、自分の見つけた生き物のふしぎを紹介し合い、「3年2組生き物のふしぎ・どきんブック」を作るという単元のゴールを示す。また、ゴールに向けてどのような力をつけていくのかを確認しながら学習計画を立てる。また、並行読書の時間を確保し、生き物の多様なふしぎに出会わせる。その際、読書メモをつけることによって、読んだ本の中からとっておきの生き物のふしぎ、「ふしぎ・どきん」を決定できるようにする。

第二次では、共通教材として「ありの行列」を読み、心をとらえたふしぎを見つける。そこで身に付けた力をすぐに活用し、自分が選んだ科学読み物や写真絵本を同様に読みこんでいく。「共通教材→選んだ本」となるように時間ごとに扱う教材を交互に配置し、「ふしぎ・どきんカード」のパーツを少しずつ完成させていく。その時間に行う学習は何かを明確にするとともに、単元のゴールに向かう意欲が膨らんでくるようにした。

第三次では、完成した「ふしぎ・どきんカード」をもとに、自分の心が動いたとっておきの生き物の

ふしぎについて、友だちと紹介し合い、「3年2組生き物のふしぎ・どきんブック」をまとめる。

単元構想を図で表すと、次のようになる。

|   |  |                  |                    |   |
|---|--|------------------|--------------------|---|
| 導入①<br>・関連図書紹介<br>・課題設定<br>・自分の紹介したい生き物のふしぎを決める。<br>*④に入る前までに | 展開②③<br>教科書教材で「ふしぎ・どきんカード」作りのポイントをつかむ。 | ⑤                | ⑦                  | 発展⑧⑨<br>・互いの選んだ生き物のふしぎを「ふしぎ・どきんカード」で紹介し合う。<br>・「3年2組生き物ふしぎ・どきんブック」をつくる。 |
|   | ・「ふしぎ・どきん」を感じた文を書く。                    | ・選んだ理由や自分の考えを書く。 | ・タイトルを考え、カードを仕上げる。 |   |
| 並行読書  | 発展④<br>自分が選んだ本で生き物の「ふしぎ・どきんカード」をつくる。   | ⑥                | ⑦                  |   |
|   | ・「ふしぎ・どきん」を感じた文を書く。                    | ・選んだ理由や自分の考えを書く。 | ・タイトルを考え、カードを仕上げる。 |   |

### (3) 指導について

主体的な学びを保証するために、生き物の生態がわかる科学読み物や写真絵本を多種類用意した。比較的読みやすい短文のものから、読みごたえのある長文のものまで、児童の実態や興味関心に合わせて選べるようにした。また、写真やさし絵から、文章の情報を確認できるものを選んだ。

第一次で扱う教師自作の「ふしぎ・どきんカード」を児童がカードを作成する際の道しるべとした。第二次の毎時間の導入に生かし、今日の学習では何を行うのか、めあてを確認するのに用いる。また、共通教材と関連図書を扱う学習をセットにし、教科書教材で獲得した力を自分が選んだ本ですぐに活用する方法で学習を進めるようにした。教科書教材の学習で行った評価をすぐに生かすことができる。毎時間少しずつ紹介カードのパーツが出来上がっていくことで、意欲づけにもつながるようにした。

### 研究主題とのかかわり

届けよう 受け止めよう ことばと心  
 ～一人ひとりが生き生きと表現する言語活動を通して～  
 (中学年テーマ)  
 相手意識をもち、伝えたいことを自分の言葉で表現する子

興味関心をもって見つけた、自分のとっておきの「生き物のふしぎ」を紹介し合う。そのために、生き物のふしぎについて書かれた科学読み物や写真絵本を読み、叙述から紹介したいことを探し出す。そして、なぜそのふしぎに心魅かれたのか、自分の驚きや感心したことなどを紹介カードに書く。自分の心をとらえた生き物のふしぎを短い言葉で端的にタイトルに表すなどして、言葉を選び、自分の思いにぴったりとくる表現を探す。このように、友だちに自分の見つけた生き物のふしぎを紹介する活動は、相手意識をもち、主体的な学びを保証すると考えられる。友だちと生き物のふしぎを紹介し合う交流の場面では、一人ひとりの感性や読みが見えてくる。共感したり、違った視点に気づいたりすることで、さらに生き物のふしぎの世界が広がることを期待している。

(4) 単元および他教科、日常活動との関連

「生き物のふしぎをしょうかいしよう  
～ わたしの「どきん」見つけた!～」  
読む (6月)

\*生き物のふしぎを紹介するために、自分の驚きや感心したことの中  
心となる語や文をとらえて科学読み物や写真絵本を読んでいる。(イ)  
\*生き物のふしぎを紹介するために、自分の心をとらえた事柄や理由  
について文章を引用したり、要約したりして感想を書いている。(エ)

理科  
「身近なしぜんのかんさつ」  
「チョウを育てよう」

スピーチ 話・聞 (通年)  
\*話したいことを伝えるために、構成  
を考え、思いにぴったり合った表現を  
選ぶ。  
\*友だちが話の中で伝えたいことを受  
け止める。

「すがたをかえる大豆」  
読む (11月)  
\*中心となる語や文をとらえ、段落相互の  
関係を考えながら文章の内容を的確に理解  
する。(イ)  
\*内容を大きくまとめたり、必要なところ  
は細かい点に注意しながら読む。(エ)

「食べ物のひみつを教えます」  
書く (11月)  
\*「はじめ・中・終わり」の構成を意識  
し、「中」の例と絵を組み合わせながら段  
落に分けて書く。(イ)  
\*書いたものを読み合い、意見を伝え合  
う。(カ)

「かるた」  
読む (1月)  
\*段落で中心となる語や文  
をとらえて引用したり小見  
出しをつけて整理したりす  
る。(イ)

7. 単元の指導計画 (全9時間扱い)

| 次  | 時 | 評価規準と<br>評価方法☆  | 主な学習活動  | 指導上の留意点  |
|--|---|---|---|--|
| 一  | 1 | 【関】生き物の生態につ<br>いて書かれた科学読み物<br>や写真絵本に興味をも<br>ち、進んで読もうとして<br>いる。<br>☆行動の観察<br>読書記録の点検 | ○教師の「ふしぎ・どきんカード」<br>による生き物のふしぎ紹介を聞き、<br>感想交流をする。<br>○単元全体の学習計画を立て、見通<br>しをもつ。 | ・教師の作成した「ふしぎ・ど<br>きんカード」を示し、生き物の<br>ふしぎを紹介することで、学習<br>の見通しをもたせるとともに、<br>学習意欲につなげる。<br>・教師自作のカードで、形式や<br>紹介のしかたを示す。 |
| 生き物のふしぎについて書かれた本を読んで、心が「どきん」となった、とっておきの<br>ふしぎを紹介し合おう。 |   |   |   |  |
|  |   |   | ○生き物ふしぎを探するために、関連<br>図書を読む。   | ・事前に、宮前図書館から団体<br>貸し出しを依頼し、児童が本を<br>手に取って読める環境を整えて<br>おく。(並行読書)  |

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
|   |   |  | ・生き物のふしぎは、読書記録（ふしぎ・どきんメモ）に書きためていくようにする。  |
| 二 | 2 | <p>「ありの行列」を読んで、心が「どきん」となったありのふしぎが書かれている文を見つけよう。</p> <p>【言】 指示語や接続語が文と文とのつながりに果たす役割を理解し、文章を読み取っている。(イ(ク))<br/>☆発言の観察<br/>ノートの点検</p>       | <p>○段落相互の関係から、ありの行列ができるわけを説明するための調査方法やわかったことをはっきりさせ、「ふしぎ・どきん」を探しながら「ありの行列」を読む。</p> <p>○生き物ふしぎを探すために、関連図書を読む。</p> <p>・全文を拡大したものを掲示し、文章構成や段落のつながりがわかるようにする。</p>                            |
|   | 3 | <p>【読】 ありの生態について、驚きや感心したことを中心となる語や文をとらえて「ありの行列」を読んでいる。(イ)<br/>☆発言の観察<br/>カードの点検</p>  | <p>○「ありの行列」を読み返し、一番の「ふしぎ・どきん」を決める。</p> <p>○不備のある引用の文を提示し、みんなで適切な書き方を考える。</p> <p>○自分の選んだありのふしぎが書かれている文を引用してカードに書く。</p> <p>○生き物ふしぎを探すために、関連図書を読む。</p> <p>・全体でモデル学習を行い、個人の活動に生かせるようにする。</p> |
|   | 4 | <p>自分の選んだ本の中から、心が「どきん」となった生き物のふしぎが表れている文を見つけよう。</p> <p>【読】 生き物の生態について、驚きや感心したことを中心となる語や文をとらえて自分の選んだ本を読んでいる。(イ)<br/>☆発言の観察<br/>カードの点検</p> | <p>○自分が選んだ本を読み返し、一番の「ふしぎ・どきん」を決める。</p> <p>○自分の選んだ生き物のふしぎが書かれている文を引用してカードに書く。</p> <p>・「ふしぎ・どきんカード」の項目や書き方がわかるように提示し、主体的な学びを保証する。</p>  |

|             |  |   |   |
|-------------|--|---|---|
| 5           | <p>「ありの行列」を読んで、ありのふしぎに「どきん」とした理由を考えよう。</p> <p>【読】 ありの生態のふしぎについて、驚きや感心したことの中心となる語や文をもとに、自分の心をとらえた理由や考えをカードに書いている。<br/>(エ)<br/>☆発言の観察<br/>カードの分析</p>   | <p>○その「ふしぎ」をなぜ選んだのか、どんなことを考えたのかを交流する。<br/>○ある児童の選んだ理由や考えを例にして、どうまとめたらよいか、みんなで考える。<br/>○自分の選んだ理由やありのふしぎについて考えたことをカードに書く。</p>   | <p>・全文を拡大したものを掲示し、だれがどの文を選んだのがわかるようにシールで示す。<br/>・全体でモデル学習を行い、個人の活動に生かせるようにする。</p>   |
| ⑥<br>本<br>時 | <p>自分が選んだ本を読んで、生き物のふしぎに「どきん」とした理由を考えよう。</p> <p>【読】 生き物の生態のふしぎについて、驚きや感心したことの中心となる語や文をもとに、自分の心をとらえた理由を考えてカードに書いている。<br/>(エ)<br/>☆発言の観察<br/>カードの分析</p> | <p>○選んだ理由や考えをどのように書いたらよいかを話し合う。<br/>○自分が選んだ本を読み返し、選んだ理由や生き物のふしぎについて考えたことをカードに書く。</p>  | <p>・「ふしぎ・どきんカード」の項目や書き方がわかるように提示し、主体的な学びを保証する。</p>                                  |
| 7           | <p>紹介する生き物のふしぎにぴったりと合ったタイトルをつけよう。</p> <p>【読】 生き物の生態について、自分の心をとらえた事柄や理由をもとに、伝えたい内容を要約してタイトルをつけている。<br/>(エ)<br/>☆発言の観察<br/>カードの分析</p>                  | <p>○例を挙げ、ありの「ふしぎ・どきん」を紹介するのにふさわしい見出しをみんなで考える。<br/>○自分が選んだありの「ふしぎ・どきん」を紹介するのにふさわしい見出しをつける。<br/><br/>○自分の選んだ本に出てくる生き物の「ふしぎ・どきん」の内容にふさわしい見出しをつける。<br/>○自分の書いた文章を読み返し、カードを仕上げる。</p> | <p>・全体でモデル学習を行い、個人の活動に生かせるようにする。<br/><br/>・心が「どきん」となったふしぎを中心に、短い言葉でズバリと表すようにする。</p> |

|   |   |  |   |   |
|---|---|--|---|---|
| 三 | 8 | 「ふしぎ・どきんカード」で、心が「どきん」となった生き物のふしぎを紹介し合おう。   |   |   |
|   |   | <p>【関】友だちの驚きや感心したことを想像しながら、生き物のふしぎを紹介し合おうとしている。</p> <p>☆行動の観察<br/>発言の観察</p>          | <p>○「ふしぎ・どきんカード」をもとに、グループ（3、4人）で生き物のふしぎを紹介し合う。</p> <p>○生き物のふしぎについて、感想交流をする。</p> | <p>・本とカードを手元に置いて紹介し合い、感想交流に生かすようにする。</p>      |
|   | 9 | <p>【関】友だちの紹介した生き物の生態について興味をもち、科学読み物や写真絵本を読み広げようとしている。</p> <p>☆発言の観察<br/>ふりかえりの分析</p> | <p>○全員のカードを分類ごとにまとめ、「3年2組生き物のふしぎ・どきんブック」を作る。</p> <p>○学習をふりかえる。</p>              | <p>・読んでみたくなかった科学読み物や写真絵本が日常で読めるよう、展示しておく。</p> |

7. 本 時 (6/9)

目標 生き物の「ふしぎ・どきん」を紹介するために、生き物の生態について驚いたことや感心したことをもとに、自分の心をとらえた理由を考えてカードに書く。

| 評価規準と<br>評価方法☆  | 学 習 活 動   | 指導上の留意点  |
|---|---|--|
|   | 1. 今日の学習のめあてを確認する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日学習する項目や書き方がわかるように、教師の作成した「ふしぎ・どきんカード」を提示する。</li> </ul>   |
| 自分が選んだ本に出てくる生き物のふしぎについて、心が「どきん」となった理由を考えよう。   |   |  |
| <p>【読】生き物の生態のふしぎについて、驚きや感心したことを中心となる語や文をもとに、自分の心をとらえた理由や生き物のふしぎから考えたことをカードに書いている。(エ)</p> <p>☆発言の観察<br/>カードの分析</p> | <p>2. 自分の「どきん」を伝えるには、どんな書き方ができるのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなことに驚いたのかまとめている。</li> <li>・「～みたい」とたとえている。</li> <li>・もしも自分だったら…と考えている。</li> <li>・観察していた時のことを書いている。</li> </ul> <p>3. 自分が選んだ本を読み返し、生き物のふしぎについて、心が「どきん」となった理由や考えたことをカードに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初とこんなに形が変わるなんて、びっくりした。</li> <li>・えものにそっと近づく姿は忍者みたい。</li> <li>・敵から身を守るためにじっとしている。自分だったらがまんできなくてもぞもぞ動いてしまいそう。</li> <li>・モンシロチョウの幼虫も、小さいのにキャベツをいっぱい食べていた。</li> </ul> <p>4. 今日の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふしぎと思ったことをたとえて書けた。</li> <li>・虫探しをした時のこととつなげて書けた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の作成した「ふしぎ・どきんカード」や児童の読書カードの中から記述例をいくつか示し、書き方のひみつを探せるようにする。</li> <li>・だれがどんなふしぎを選んでいるのか、カードの記述を事前に把握しておく。</li> <li>・主体的に学習が進められるように、前時で扱ったありの行列「ふしぎ・どきんカード」を掲示しておく。</li> <li>・わかりやすく伝わるか、思いが伝わるかを中心に個別指導をする。</li> <li>・三次で紹介があるため、どんな視点で書いたのかを話すようにする。</li> </ul> |

